

(個人用)

行政視察等報告書 (個人用)

令和6年10月15日

知立市議会議長 様

報 告 者	小林 昭弼 (篤心会)
日 時	令和6年10月9日 (水)・10日 (木)
視察 (研修) 場所	トーサイクラシックホール岩手
目 的	第19回 全国市議会議長会研究フォーラム
【概 要】 日 時 第1日目：令和6年10月9日 (水) 13:00開会式 (受付 11:00) 第2日目：令和6年10月10日 (木) 9:00開場 場 所 トーサイクラシックホール岩手 (岩手県民会館) 意見交換会場：ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING4 階 メトロポリタンホール 主 催 全国市議会議長会 後 援 総務省 実 施 第19回全国市議会議長会研究フォーラム実行委員会 【タイムスケジュール】 第1日目：10月9日 (水) 【会場：トーサイクラシックホール岩手 11:00 受付開始 (岩手県民会館)】 13:00 開会式 13:20 第1部 基調講演 【人口減少社会における地域の未来図】 菅 義偉 第99代内閣総理大臣 ビデオメッセージ 13:50 休憩 14:20 パネルディスカッション 【議会の課題と主権者教育】 コーディネーター 井柳 美紀 静岡大学人文社会科学部法学科教授 パネリスト 土山 希美枝 法政大学 法学部 教授	

越智 大貴 一般社団法人 WONDER EDUCATION 代表理事
渡辺 嘉久 読売新聞東京本社 教育ネットワーク事務局
遠藤正幸 盛岡市議会議員

16:20 次期開催地挨拶

16:30 終了

17:40 意見交換会 ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WI4 階
メトロポリタンホール

18:40 終了

第2日目：10月10日（木） 【会場：トーサイクラシックホール岩手
（岩手県民会館）】

8:30 会場

9:00 課題討議 【主権者教育の取組報告】

コーディネーター 河村 和徳 東北大学大学院情報科学研究 准教授

パネリスト 白鳥 敏明 伊那市議会前議長

諸岡 覚 四日市市議会議員（第83代議長）

服部 香代 山鹿市議会議員

11:00 閉会式

11:30 視察

【第1日】

コーディネーター井柳氏からは、主権者教育の新たな展開として、地方議会に関する地方自治法改正を踏まえた主権者教育の推進、地方議会の課題として、投票率の低下、無投票当選の増加、議員の性別や年齢構成の偏りなどがあり、課題を抱える。議会に対する関心を高め、理解を深める主権者教育を一層推進し、出前講座や模擬議会など、議会自らが主体的に主権者教育に取り組む事例が広がっていると発言があった。昭和22年、学校教育の中で「良識ある公民たるに必要な政治的教養は、教育上これを尊重しなければならない。」とし、学校の政治的教育が難しい中、昭和44年の通知で「教師の個人的な見解や主義主張がはいりこむおそれがあるので慎重に扱うこと」としていた。平成27年の通知では「現実の具体的な政治的事業も取り扱い、生徒が国民投票の投票権や選挙権を有するものとして自らの判断で権利を行使することができるよう、具体的かつ実施的な指導を行うことが重要」と問題提起しました。

土山氏が『誰がための主権者教育』かをテーマに、主権者教育の主体は学校、教育委員会であり、議会が主権者教育していると称するのをやめませんかと発言。「高校生に作文（高校生議会の感想）を朗読してもらい、大人の側からコメントを締めくくる」のでは「教え育てる」ことにはならない。

越智氏は「若者の政治・社会への意識から考える主権者教育の必要性」をテ

一々に、若者は政治や社会への関心が特別低いわけでもなく、参加しても意味がないと思っている。議会の役割としては、自分の意見を聞いてもらえる、アイデアを反映してもらえると感じられる機会を増やす必要がある。学校現場における主権者教育において、政治的中立への過度な配慮があるが、学校が悪いわけではない。議会の役割として学校でもリアルな政治が扱いやすいような環境を作る。例えば外部団体と超党派で主権者教育チームを作る。政治家との交流はこども達の政治意識の醸成に大きく影響する。などの点を挙げた。

渡辺氏は「政治とつながる、政治を考える」をテーマに、正解は一つとは限らない。政治は未来であり、自分の希望する未来を創造することになると伝えていくことが大切と語った。

遠藤氏は「盛岡市議会の取組」を紹介し高校生議会に参加した高校生からの意見で「市政に関心を持った」「議会の役割が理解できた」などを報告した。

【第2日】

コーディネーター河村氏から、主権者教育の理想と現実の指摘がありました。理想は①主権者教育は基本的にシチズンシップ教育であるべき②地域社会の社会的課題を自ら認識し、経験を含めた形で社会を改善していく力を養う方向にもっていくべき③社会には多様な意見があることを理解する（ディベート）。しかし現実には①知識の享受（制度の理解）が中心、正解を教えようとする②投票者重視（模擬投票）の教育③実施主体（教育委員会、選挙管理委員会等）の連携の不十分さ等の提起があった。

長野県伊那市では平成30年の市議会議員選挙が無投票となったことで、議員のなり手不足に危機感を抱き、6月には全議員参加の「魅力ある議会づくり検討会」を設置。若い人に議会への関心を高めるために、特に高校生を対象に議会傍聴、意見交換等の企画を決定した。参加した高校生は「話しているうちに自分の意見を言うことができ、市のことをよく知ることができた。」「議員さんに親身に話を聞いてもらえ、アドバイスももらった。」「将来、政治家になりたいと思った。」との感想。参加した議員の感想は「高校生の真剣に取り組む姿に感動した」「声を直接聞ける良い機会。今後も積極的に行っていきたい。」など、双方とも肯定的な意見であった。また、意見交換をきっかけに高校生から請願書や要望が出されるなど市政への参加意識が高まったとの報告があった。

三重県四日市市議会では各常任委員会が地域の中学校・高校・大学に出向いて、テーマをもとに意見交換を行う「ワイ！ワイ！GIKAI」を実施している。今後の展望として各種業界団体、各種労働組合など、制限を設けず幅広い対象との交流を目指していきたいとのこと。また、高校生議会も開催しており、開催方法はテーマごとに委員会に分かれ、意見交換を行い、本会議場で意見書の採択を行っている。

熊本県山鹿市は「山鹿市議会が取り組んだシチズンシップ教室」では「開か

れた議会になっていない」「住民の理解と関心が得られていない」「議員のなり手不足」などの課題を感じ、議員のスキルアップが必要であるとして、小学校でのシチズンシップ教室を開催。①市議会について知る②議員の仕事を理解する③選挙の意義や、投票の大切さがわかる、の3点を伝えている。教育委員会等と協議し実施。教材として使う絵本「ポリポリ村のみんなしゅしゅぎ」の読み聞かせボランティアには、市民の参加も得ている。子どもたちからは「議員の仕事がわかった」「投票には興味がなかったけど、投票の大切を知った」「議員の仕事をしてみたいと思った」との感想があった。議員の側も職責の重さを再確認した。参加した市民ボランティアからは「議員の努力が見えた」「自分たちも選挙の意義や議員の仕事が理解できた」との反応があり、子ども以外にも波及効果が大きかったようですと報告。

【所感、知立市政への反映に向けた課題等】

当市は子ども議会・高校生議会が開催され、中・高校生には議員の仕事や議会を理解していただけてきていると思います。今後もっと議会を理解してもらうために、山鹿市議会が取り組んだ小学校でのシチズンシップを当市へ導入し子どもたちに投票や選挙の大切さを理解してもらうとともに議員の仕事を知ってもらい議会の仕組みを説明し、理解してもらい、将来的に議員のなり手不足解消する様に仕向けたらいいのではないかと。

※報告書は視察（研修）場所ごとに作成してください。

報告書は視察（研修）終了後1週間以内に提出してください。